

同じ命

小学3年 青木 凜

わたしは、2年生の生活のじゅ業ではじめて虫取りをしました。わたしが取ったのは、バッタでした。その日は、早く家族に見せたくて、虫かごを大事にかかえて家に帰ったことをおぼえています。そのじゅ業がきっかけでわたしは、生き物にきょう味がわきました。休みの日には、お父さんと家の近くの緑地公園へ遊びに行くようにもなりました。

緑地公園には、バッタやコオロギ、カマキリなどの虫たち。他にもツバメやムク鳥、ザリガニなどたくさんの生き物が住んでいます。今まで気にしていなかったけれど、こんなにもたくさんの生き物がわたしのまわりにいる事におどろきました。わたしより小さいけれど、元気にとんだり、泳いだり、えさを食べたりして、一生けん命生きているすがたを見ていると、わたしも元気になっていきます。

「命には、大きい、小さいというのはないんだな。みんな同じ命なんだ」と思いました。

家では、わたしが取ってきたバッタがたくさんのたまごをのこしてくれました。そのたまごたちがよう虫になって、何回も何回も脱皮をして大きくなっていく様子を見ていると、

「がんばって！」

と声をかけてしまいます。今では、みんな大きく成長しました。もう少ししたら、さびしいけれど広い緑地公園へ帰そうと思います。

地球には人間だけではなく、たくさんの生き物が住んでいます。わたしは、生き物みんなが楽しくらせる世界にしたいです。それには、魚が住む場所、鳥が住む場所、動物が住む場所を守っていくことが大切だと思います。そのためにわたしは、川や海をきれいにし、森の木を守っていきたいです。